



学校だより

清流

立山町立立山中央小学校

令和3年7月

自立した子供を育てるために!

1学期も残すところわずかとなりました。コロナ禍の中で心配されていた教育活動については、感染防止対策を十分に講じながら進めてまいりました。行事については、「どうやったら安全に教育活動を進めていけるのか」という視点を大切にして可能な限り実施してきました。また、水泳指導においても、入水の人数を減らしたり、指導方法を工夫したりしながら行っています。子供たちは、新しい生活様式にも慣れ、友達との関わりを通して成長している姿が見られます。

さて、ある研修会の中で、「今の子供たちができなくなってきていることは何か」という話がありました。それは、「人の話がうまく聞けない」「コミュニケーションの取り方が分からない」「手先があまり器用でない」ということでした。なぜ、そのような子供たちが増えてきているのか。それは、少子化の影響からか、親が子供を心配するあまり、世話をし過ぎたり、声をかけ過ぎたりすることが原因の一つではないかということでした。親からは、「～は持ったの」「～はできたの」といった指示が多くなり、また、親だけではなく周りにもたくさん声をかけられる。そのような誰かが助けてくれたり、声をかけてくれたりして自分から何も言わなくても済んでしまう状況の中、しだいに人の話を聞かなくなったり、話さなくなったり、という子供が増えてきたのではないかと思います。



6年生プール清掃



3年生プール学習

子供に声をかけることはとても大切なことです。是非、温かい声をかけてほしいと思います。しかし、何事に対しても行き過ぎはよくありません。子供たちに、「自分で出来なくても誰かがやってくれるだろう」という考えをもたせるのではなく、何とか自分でやろうとするように意識させること、安易に手を出すのではなく子供の将来を考えて励ますことに心掛けることが必要ではないでしょうか。

「しつけ」とは、子供が成長する過程で、社会に出ても恥ずかしくないように、しっかりと自立した人間として生きていけるように規範意識や礼儀作法・挨拶等を教導していくことです。 **「しつけ」は「し続けられる」ようになるまで教える。**本人が「仕付ける」ようにすることではないでしょうか。そして、教える過程での大人からの声かけのタイミングやバランスが重要になってくるのだと思います。

学校では、子供たちを指導するために、教員は言葉を選び、一生懸命に話をしています。しかし、子供たち一人一人の言葉にしっかりと耳を傾け聴いているだろうか、こちらの思いを一方向的に伝えているだけになっていないだろうか、振り返っているところです。学校でも家庭でも地域でも、私たち大人が、子供たちとの一方通行の話で終わらせず、双方向のつながりを築けるよう気を付けていきたいものです。